

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（7日）午前、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で、前回（4日）の調査と比較して大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね4kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

新燃岳火口から概ね3kmの範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、直径4cmから6cmの小さな噴石は新燃岳火口から7km付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

○活動概況

・上空からの調査（図1、図2）

本日（7日）午前、海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で、前回（4日）の調査と比較して大きな変化はありませんでした。表面は概ね平坦で、主に溶岩中央付近と東側の2ヶ所から噴煙を上げており、中央付近の噴煙高度は火口縁上200m程度でした。溶岩中央部にわずかな窪みを確認しました。

また、赤外熱映像装置¹⁾による観測では、高温の領域が小さくなり溶岩の表面温度が低下していました。

・噴煙など表面現象の状況

新燃岳では噴火が継続しています。本日15時までの噴煙の最高高度は1,500mでした。

噴火が継続するなかで本日06時07分頃には、灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がり、南東に流れました。また、この時大きな噴石が約700mまで飛散したのを確認しました。

本日15時まで爆発的噴火はありませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

火口内に蓄積された溶岩は直径 600m 程度で前回（4 日）の調査と比較して大きな変化はありませんでした。

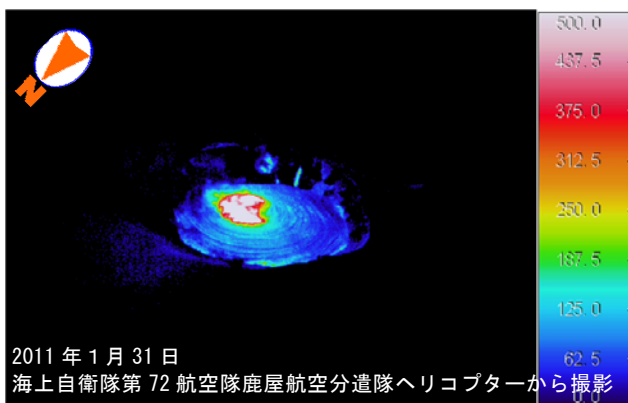
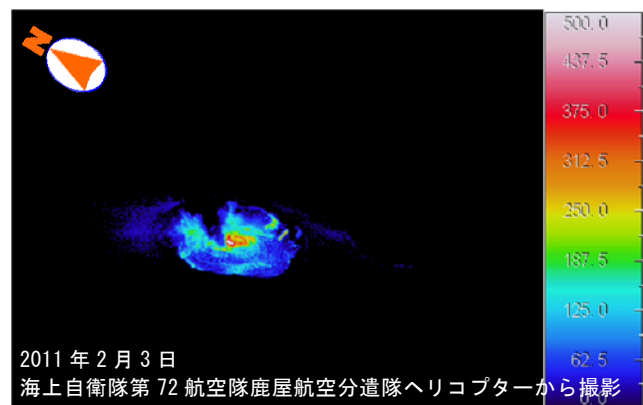
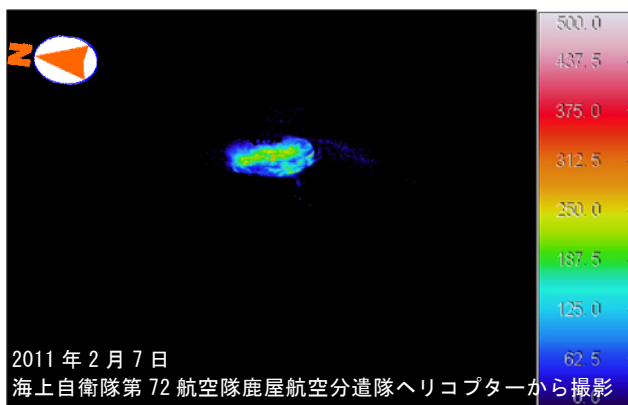


図 2 霧島山（新燃岳） 火口付近の表面温度分布

赤外熱映像装置による観測では、高温の領域が小さくなり溶岩の表面温度が低下していました。